御創祀一二〇周年奉祝号

土別神社社報一七六号／令和元年

つくも山

▲令和初5月19日ひふみ会つくも山音頭

▲姉妹都市ゴールバーンマルワリー高校

▲令和 例大祭 御神幸式 大国舞

▲8月11日建立50周年針塚針供養祭

奉祝 天皇陛下御即位

御代替り 平成から→ 令和へ←

撮影奉納／加藤 幸男氏

▲1月5日空手道 初稽古

▲1月13日平成最後の成人祭

▲2月3日第60回節分祭福まき

▲3月3日 第30回人形供養祭

表紙イラスト 高橋しん 漫画家。北海道士別市出身。山梨学院大学1年生の時に最終10区の走者として第67回箱根駅伝に出場。1990年にスピリッツ賞を受賞し同年マンガ家デビュー。代表作「いいひと。」「最終兵器彼女」「花と奥たん」等。現在「髪を切りに来ました。」（メロディ）連載中。

一二〇周年に感謝して

宮司　佐藤元保

本年は天皇陛下御即位令和元年という誠にめでたい奉祝の年をむかえました。

士別神社も士別開拓と同時にお祀りされて一二〇周年記念の年に際会しました。昨年来、懸案事業を実施するため記念奉賛会結成の準備が進められ昨十二月一日奉賛会設立総会が開催され、会長には千葉道夫総代会長、副会長以下役員が選任され、総額二千五百万円の篤志をお願いすることが決定されたところであります。

今年に入って1月26日の常任理事会で、各地区毎に篤志会員募集が進められました。厳しい状況下、心配されましたが、目標を上回る三千四百万円以上のまごころが結集され資金の目途がつきました。

今回の事業の中心は、当市でも数少ない築九十余年になる文化財的建造物本殿の一部改修と築二十年を経過した参集殿の暖房設備と照明設備のLED化をはじめ、すべて九十九山の自然と大正昭和平成三代で建立された調和美を復元保存し、未来に引継ぐ事業内容と相成っております。七月の百二十周年記念例大祭に続いて、10月12日、神社本庁献幣使参向のもと、御創祀一二〇周年式年臨時大祭・奉祝式典を挙行する運びとなりました。鎮守の神様と協働して一二〇周年という記念の年に、世界平和・皇国の弥栄と士別市の発展、皆さまの平安をご祈念申上げる次第でございます。

奉祝行事として9月15日第41回太幹杯弓道大会を共催、9月28日には斉藤昌淳氏の境内「天塩川碑」前で記念の詩歌句祭を実施して百二十周年を奉祝いたしたいと存じます。

これを契機に役職員総代共々、中心街に隣接全道第二の広さを誇る周囲二、五キロの神域を護持し神明奉仕に精進したいと誓いを新たにしております。どうか今後とも一層のご教導ご高配賜りますようよろしくお願い申上げます。

結びに、士別の基を築かれた先人先輩、歴代関係篤志の皆さまのご労苦ご功績を讃え、御霊の御安鎮をお祈り申上げ、心から厚く御礼申上げます。

ご挨拶

士別神社責任役員総代会長　小林一男

明治三十二年七月最後の屯田兵が士別に入植して、この士別の開拓が始まりました。九十九山の森に私たち士別の鎮守士別神社は明治・大正・昭和・平成そして令和へと永きにわたり、地域住民の支えとして今年御創祀百二十周年を迎え、父祖先人の開拓の汗ににじんだ精神が集結していると思います。今年は平成から令和への御代替りの年に千葉道夫会長が勇退され、私が総代会長に選任されその責任の重大さを感じているところです。

このたびの御創祀百二十周年記念事業の遂行にあたり千葉奉賛会会長をはじめとし多額のご賛同を賜り挙行されることに対し心より御礼申し上げます。

士別市の文化的道北一のご社殿を永遠に伝えるべき大修理をなし、先人先輩が遺された士別神社は市民の安全安心のためまた心のよりどころとして九十九山に鎮座されています。

この事業に対しまして各業者、市民、奉賛会の皆さまに献身ご尽力いただきました、多数の皆さまに衷心より敬意を捧げ御礼申し上げます。

今後におきましても士別が住み良い郷土として、皆さまの幸多き暮しを末永く御守り下さるようご祈念申し上げまして御礼のごあいさつと致します。

れました。
戦時中は出征兵の武運長久祈願祭や千人針のお祓、御神座奉遷用の防空壕も掘られました。昭和20年士別林業部会が、笠木の長さ37尺4寸の木造大鳥居を建立、空襲目標になると反対もありましたが、8月15日終戦の大詔が下されました。
大鳥居は昭和33年祭典後日祭の日中、大音響と共に倒れましたが、この瞬間だけ通行人は無く、奇跡と話題を呼びました。翌34年人造石で再建、58年銅板巻き、一の鳥居として親しまれています。

○昭和27年　句塚とあづまや白雅亭建つ＝北海道文学地図所載"藪は畑に畑は田になり囀れる　荒谷松葉子
5月17日除幕式。当地方の先達の上記をはじめ門人10人の句が刻まれ、周年毎に献句祭が行われています。

○昭和33年　社報「つくも山」創刊
昭和32年佐藤公聴禰宜着任。昭和33年赤ちゃんのうぶこ祭り＝合同初宮詣が昭和6年以来27年ぶりに復活。七五三まつりも始められました。
本社報「つくも山」も昭和33年創刊。平成11年神社本庁関係広報誌コンテストで読みやすさなどが評価され道内から唯一、特別賞に輝いています。

▲平成12年の節分祭福まき

サフォーク（株）
斎藤建設工業（株）
林　利彦
吉倉　司
高嶋弘幸
たぬきや食堂
村瀬義孝
（有）寝具の井上
谷村豊治
（株）西村木材店
（株）庄内余目
（株）ゑびす
柏倉ホーム株式会社
大谷歯科医院
（有）大友種苗園
アミー美容室
金子旅館
谷商店谷敏朗
北洋銀行士別支店
綜合保険商事（株）
長谷川延善
仲野貞子
佐竹秀嗣
西澤清士
金井正晴

森　龍一
岡崎幸春
前田孝幸
（有）坂口組
道北綜合林材株式会社
池田亨
神田裕教
高橋義弘
倉橋千寿
林　妙子
佐藤勲
江端和子
菊池隆博
橋本利夫
渡邊道子
畠山広行
幕田俊二
佐藤勝則
有限会社佐野林業
滝上一行
目黒精一
山口健
宮路トキ子
宮路博美
清野史明

北海道ブロック住宅（株）
氏家洋一
稲毛幸雄
得宇章
菅原利伸
中根裕
上杉サチ子
太田晃司
株式会社道北観光
士別営業所
有限会社つくも運輸
水田孝志
有限会社アーキッシュ
コーポレーション
北海道中央農業共済組合
上川北支所
社会福祉法人
しべつ福祉会
藤田功
馬場軍司
工藤哲也
千葉靖紀
宮田喜美子
奥山セツ子
斉藤幸雄
清野和
遠山建築設計事務所
佐々木勲

楓田茂
宍戸政信
秋山照雄
小笠原壽則
高橋正昇
柴田茂
吉越三矩
岡垣士史
渡辺正
渡辺輝明
佐々木辰彦
黒川仁
松田邦夫
士別同友会
カントリークラブ
箱山照雄
湯浅清夏
牧野正
美し乃湯温泉
星悦子
(有)ミヨシ建装
三輪春雄
荒木二三夫
高田篤士
杉澤悦男
柳原一夫

小林隆
鈴木健善
寺嶋孝一
小林一範
宍戸重夫
磯川武
(有)小酒井塗装店
上杉千鶴子
下間山明
山谷勲
若森孝
日下文明
横井勇
(有)阿部熱学工業
(同)山下サポート
コミュニティフェア
松井裕之
有野強
水口徳太郎
(有)士別生鮮市場
有限会社下村鉄工
セルテック株式会社
(株)シティホール道北
士別ベルコ会館
栄進自工加藤
岩見住設有限会社

高石溶接工業
戸口商店
北運共栄株式会社
士別営業所
株式会社東建
ひるさいどぽっくす
旭川トヨタ自動車株式会社
士別店
協業組合
北部ガスセンター
カーサポート つちや
神野光博
荒木克二
斉藤典明
原田肇
上原祐治
佐々木憲明
大川義彦
猪野義男
竹村敏明
士別ひまわり
平河内幸
浅野徳松
平野延雄
水村將美
川上利夫
大崎陽司
小野寺等

○昭和35年 節分祭福まき始まる 子年節分祭。初めて年男年女奉仕による福まきついな式斎行。福豆福餅福飴等一万点。縁起福枡ほか景品三百点。今年で60回北海道では珍しく士別冬の祭典として市外からも来訪、カメラの放列となります。

車社会到来に対応 社務所前は昭和33年3度目の参道改修広場造成工事、昭和37年には桜丘団地造成により南参道開削の要望多く、総代会で藪払い奉仕、市建設課で工事着工7月開通。迂回道として冬期も除雪され平成11年市道に移管し完成舗装されました。一の鳥居下の道路用地と交換。

○昭和43年 戦後初の祈雨祭 士別市は前年産米55万俵達成、単一市町村全国一を記録。43年は旱天続き6月28日全市挙げて戦後初の祈雨祭＝雨乞い祭が行われ祈願歌句も献ぜられ豊穣の秋を迎えました。高度経済成長下、自動車も普及、入魂式や祈願祈祷も増加、初詣は右肩上がりの人出。46年社頭授与所が建立されました。

○昭和44年 針塚が建立される 士別開基70周年を記念、各種学校士別部会は境内に針塚を建立、毎年8月11日針供養祭斎行、今年は51回を数えます。市開基70周年事業、市郷土研究会により屯田兵屋が移築復元、市文化財第一号に指定されましたが、57年市立博物館前に再移築。

旧社務所 大正10年29坪余で新築以来、昭和24年＝修繕委員会（千葉太郎右衛門委員長）、35・38年（佐々木良五郎御営繕奉賛会長）、44年（）創祀70周年佐藤矩奉賛会長）等士台替増改築を重ね延260坪となりました。平成9年ご創祀百周年奉賛会（斉木繁雄会長）

○昭和37年 南参道開通
▼平成11年 市道移管本格舗装工事

○昭和45年 旧社務所増改築完成
▲神殿増改築大広間88帖に。結婚式や祝賀会、講演会にも。併せて付属神具倉庫も改築

大橋眞喜人　菊池宏明　佐藤正治
水村将博　菊池邦彰　渡邊征夫
加納利文　若松透　奥山稔
志田良雄　山口レイ子　鈴木あつ子
山田孝雄　幕田信一　森川博逸
山本正義　佐藤正敏　谷悟美
植松強　川上巌　涌井信幸
河南啓一　鈴木啓二　長原博
岡隆雄　阿部秀範　小泉義和
波多野一郎　大谷悟　小関誠
佐藤優行　大谷里志　藤原敏正
羊と雲の丘観光　神田憲之　小野寺勝也
山岸繁行　有野一正　石井正明
（株）翠月　西田民義　岡島良隆
近藤義和　東海林道雄　山中亀夫
佐々木稚志　東海林春男　田辺康仁
尾形義郎　船木貢司　藤原広行
尾形潤　足利和茂　山本忠志
清水賢之朗　森岡道夫　涌井三夫
久光正憲　岡部菊雄　木村哲哉
鈴木庄一郎　佐々木守　伊藤賢一郎
高橋綱悌　沼館初男　山本勲
尾形榮治　佐々木清継　山本孝義
菊池隆雅　奥山清信　山本智明
三浦智教

B5 99頁。題字は藤井立応氏、絵は百瀬達夫氏の揮毫奉仕。

で現参集殿社務所新築で解体。最古部分の柱等77年、喜寿まで広く使用されてきました。

旧弓道場 昭和7年野天道場として開設、以来24年、35年、44年社務所増築の度に安土は移動、昭和48年には屋根付射場・安土となり、54年神具庫と共に増築され、高体連名寄地区大会場にも使用、百周年事業で現位置に新築されました。

○昭和45年 70周年事業竣功大祭

ご創祀70周年奉賛会＝佐藤矩会長は、当初八百万円事業で、社殿改修、大鳥居及び忠魂碑玉垣復旧、社務所3期工事、浦安の舞復活、70周年記念誌刊行他計画。社殿の破損著しく追加工事、最終的に千三百万円弱の募財を頂き、6月21日事業竣功大祭式典が社殿と大広間で内外関係者参列盛大に行われました。

忠魂碑玉垣は戦時中鋼鉄供出により撤去されていたものを復旧再建。浦安の舞は昭和15年紀元二千六百年記念に、天理教岡田清一教会長と西村為教楽長指導、琴姫舞姫奉仕始められました。戦後中断、元京都雅楽研究所増子清子氏士別来市により指導奉仕、公募小中学生19人奉仕復活、正装四組も調進し継続されてきました。現在は神社庁講師でもある佐藤惠美爾宜に引き継がれています。

○昭和46年 成人祭始める

成人の日参拝者に御守を贈ってきましたが、第一回成人祭を斎行。多い年は拝殿狭しと150人突破。少子化で、近年は該当者の8割110人前後の参列。総代有志敬婦の協力も得て斎行。当地方で成人祭は珍しく広く道北一帯からカメラ愛好者大集合、賑やかな新春風景を現出します。

○昭和48年 かつぎみこし復活

昭和47年、第1回お祭写真コンテスト。途中一年休み今年47回目。市生涯学習センターいぶきで写真展を開催してきました。

▲70周年式年大祭 浦安の舞 奉奏

藤原寛録　石川利男　山田篤　河本剛　山崎清志　溝渕修　柏倉肇　菅原康晴　鈴木茂樹　木島仁　諸戸康男　石橋敏廣　横沢信一　浅野悦子　折橋寿守　真野隆　佐々木正幸　大久保勝　菅原満　伊藤隆　尾形則　伊藤靖　飛世薫　下道隆　植松雄

宮路一美　小林敏隆　梅津純男　河所隆嗣　羽鳥勇策　大熊義雄　木島喜久雄　大友弘　上西好昭　木島光雄　上西勝　谷昇　徳田正勝　梅津雅俊　春名薫　広瀬仁　柿崎英雄　村上昭治　沼田貴典　谷満弘　今野和史　井手茂　井手一久

有馬成之　有馬芳孝　株式会社N1PPO　士別出張所　大西晃司　木村昭春　佐藤傳蔵　成田八重子　古川親文　道北自動車学校　糠塚信子

准会員

金一万円未満

二、二三二人（芳名略）

［記念奉納品］（敬称略）

一、御創祀一二〇周年令和元年記念　福もちまき　士別小僧会

一、制札台玉垣塗装　上北利直

一、書額「釈文」　阿達香婉（信子）

▶昭和48年　復活かつぎみこし渡御　国道40号線大通り中心街は歩行者天国に。

▼第1回中央通り歩行者天国
今年は40回目の実施／実行委員会主催

○昭和53年　佐藤公聴禰宜が宮司に

父織雄宮司帰幽、後任として就任。道教育大、國學院専修科明階取得帰市本務禰宜。昭和35年のご創祀60周年から10年毎に篤志を頂き社頭整備式年大祭に携わり、帰市60年の平成28年1月14日付で勇退、神社本庁から当社初の名誉宮司の称号を授与されました。この間地域では市教育委員長、調停協会長他公職多数歴任。神社庁理事、副庁長を経て平成16年庁長2期。階位浄階、21年最高の神職身分特級、2月5日授与式で該当8人、5月20日表彰式では265人を代表して池田厚子総裁に代表謝辞を述べました。

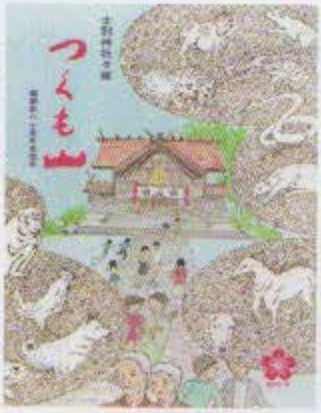
○昭和54年　ご創祀80周年奉賛会

80周年奉賛会＝佐藤矩会長が設立され、予算1千6百万円で計画中、費用高騰懸念されましたが3千万円を超える篤志を賜り遂行できました。日高産自然凹み水溜め手水石は当市出身阿部荘八氏のご奉納。12本柱神明造手水舎。社殿前に御影石狛犬は大塚秀夫夫妻一対ご奉納、腐食の木造玉垣を御影石で建替え、石段も改修。内外清浄記念碑は前神宮大宮司で神社本庁統理徳川宗敬農学博士の揮毫。博士は全国博物館協会長も務められ昭和57年全道大会士別開催の折、毛利専務理事が参拝記念碑前で記念撮影されています。同碑と手水舎前には牧野武一氏奉納の和寒産大石を敷設、北海道神宮災害復旧費も21万円の目標に対し51万円を奉賛。6月24日80周年記念臨時大祭。社務所階上大広間で式典が挙行されました。

歴代祭典委員長一覧（敬称略）

昭11年 三浦健三郎
昭12年 河合 銀治
昭13年 寺木辰次郎
昭14年 石垣 末松
昭15年 浜下 市郎
昭16年 大野 直吉
昭17年 赤岡 豊
昭18年 鈴木 顕蔵
昭19年 山畑弁次郎
昭20年 阿部儀一郎
昭21年 佐藤庄左衛門
昭22年 星野 寛
昭23年 大伏 繁一
昭24年 葉太郎右衛門
昭25年 柴田 佳璋
昭26年 古賀 磐
昭27年 西條初太郎
昭28年 深澤 喜由
昭29年 浜本健太郎
昭30年 江端 強
昭31年 森実 易逸
昭32年 久光 鷹士
昭33年 西村喜八郎
昭34年 幸田 庄作
昭35年 間宮 米吉
昭36年 深尾 庫槌
昭37年 印藤 善幸
昭38年 太田 茂治
昭39年 三和 信一
昭40年 佐藤熊三郎
昭41年 渡部 恒夫
昭42年 佐々木良五郎
昭43年 浜下 一男
昭44年 岡田 小治
昭45年 楠本 一雄
昭46年 志村 藤平
昭47年 宮武 誠市
昭48年 丸 潔
昭49年 青木弥太郎
昭50年 田中 義人
昭51年 高野 光一
昭52年 大野 忠義
昭53年 渡辺喜美寿
昭54年 田中 武義
昭55年 斉藤 良雄
昭56年 深澤 信次
昭57年 大谷 一雄
昭58年 佐藤 矩
昭59年 鈴木 吉雄
昭60年 加藤 信行
昭61年 木島 秀雄
昭62年 小林 秀雄
昭63年 阿部 馨
平成元年 斉木 繁雄
平2年 田中 巳則
平3年 植松 繁雄
平4年 大友 二郎
平5年 國井 英吉
平6年 小泉 千万
平7年 山本 榮
平8年 伊藤 敦
平9年 今井 清次
平10年 汐川 俊一
平11年 中村 徹雄
平12年 黒河 照雄
平13年 佐藤 安司
平14年 岩月 清
平15年 辻本 晴美
平16年 渡會 昭治
平17年 藤原 高典
平18年 菅原 剛
平19年 吉井 秀二
平20年 秋山武四郎
平21年 百瀬 達夫
平22年 千葉 道夫
平23年 田苅子 進
平24年 景井 光男
平25年 小林 一男
平26年 鈴木 勉
平27年 阿達 勇
平28年 渡辺 正一
平29年 大野裕一郎
平30年 佐久間富雄
令和元年 織戸 俊二

※例大祭は祭典年番区が祭典委員会を組織して祭典諸行事一切を取りしきっている。創立以来7祭典区順番だったが昭和15年から中央通を境に南北2年番区となり、農村部4地区と組合せ南北各2祭典区で今日に至っている。祭典委員長は一生に一度限りの奉仕で家門の栄誉として戦前は行政区長会議、戦後は氏子総代会で推薦している。



▶奉祝号表紙は書家木村清風氏題字、斉藤千文氏＝斉藤眼科令嬢札幌の揮毫奉仕（社報つくも山奉祝号は九千部刊全戸配布）

○昭和56年 獣魂碑移設建立

市営屠畜場閉鎖で昭和9年建立の獣魂碑が移設。奉賛会が獣魂祭を継続。碑面は野上重慶氏の揮毫。動物供養参拝者も多数です。

○昭和57年 本殿花崗岩玉垣竣功祭

本殿木製玉垣は昭和5年建立以来2度立替するも腐食が進み、花崗岩柱石奉納をお願い、以来小山為蔵氏が南側鳥居をご奉納、鳥居3基と柱石154本30間が完成、11月7日竣功祭、通り初め式が行われました。

▲南側小山氏鳥居付近
柱石に奉納者名とそれぞれの思いを刻んで…

○昭和58年 宅造計画北側国有地購入

旭川営林支局と折衝を重ねて、ミズバショウ群落を含む自然と美観を守りました。

○昭和60年 北海道自然百選に

財団法人森林文化協会選。北海道大学図書刊行会発行『北海道自然百選紀行』にも登載されました。当社では九十九山の四季写真コンテストを実施、93点の応募、道北日報谷口日出夫氏はじめ審査員をお願いしつくも山紙令百号をオールカラーで刊行。1頁鈴木孝幸氏入選うぶこまつり、7月16日斎行写真、2・3面は臼井喜三郎氏「秋彩」最優秀賞ほか紹介しています。

○昭和63年九十九山を守る会発会

昭和23年神社通に住む有志が愛桜会を結成し桜を守ってきました。昭和56年に解散、九十九山の動植物の保護育成と貴重な自然環境の保持を目的とする九十九山を守る会＝槙徳治郎会長（平成12年離市迄）が結成され、翌年社務所前に案内図を設置しました＝百周年で塗替。背面の市道東山九十九線が開通、面目が一新されました。

○平成元年 創祀90周年式年大祭

記念奉賛会は63年2月設立され、佐藤矩会長はじめ役員選出、総額3千万円の予算を決定。会員募集は順調に進み懸案の社殿屋根葺替大修理、南参道大鳥居と社号標建立、祭具庫弓道場改装、桜井勝美詩碑、春日燈篭一対（浅田一憲・博美、高柳章・晴美奉納）他5千万円寄進を得て、7月16日神社本庁献幣使道神社庁副庁長芦原巌大旭川神社宮司と随員高橋弘平参事＝後に霧島神宮宮司の参向、国井英吉市長他大勢参列式年大祭を斎行。つくも山記念号B5 28頁（塚本熊雄氏揮毫）を全戸配布しました。

▲昭和60年 川柳句碑建立
士別川柳会結成10周年を記念建碑除幕式は9月7日挙行され、16会員の川柳が刻まれています。

法定届出総代＝創立昭和26年迄

創立発願者総代 士別町長 遠藤康之・山畑弁次郎・阿部儀一郎

歴代法定届出総代
大正8年～昭和26年

菅原太吉・鈴木永治郎・西條武平・河口吉次郎・金野惣四郎・山畑弁次郎・赤岡寿作・長井繭三・前田禎久・木村伊助・新川与三吉・寺木辰次郎・片岡英之進・佐々木左市郎・山田敬次郎・藤野長作・立野庄太郎・志村安民・三浦健三郎・中山定次・佐藤庄左衛門・星野寛・大野直吉・稲波重太郎・山崎永太・河合銀治・松永旭成・喜多杉造・柴田佳璋・稲場治四郎・岩木治三郎・千葉太郎右衛門・高野吉郎・佐々木譲・鎌倉庄一

氏子代表 佐藤庄左衛門（境内地保全尽力）神社庁長表彰

総代会議長＝昭和23年～28年
深澤喜由・鎌倉庄一

総代会総務委員長
阿部儀一郎・柴田佳璋

歴代総代会長 昭和36年～現在

佐藤 矩
昭和36年～平成5年70・80・90周年各奉賛会長
神社本庁敬神功労章

斉木 繁雄
平成5年～18年
百周年奉賛会長として3億3千万円余事業完遂・神社本庁敬神功労章

小泉 千万
平成18年～21年
百十周年奉賛会長・神社庁長表彰

佐藤 安司
平成22年～24年
百十周年奉賛会長代行・神社庁長表彰

田苅子 進
平成25年～27年
平成10年～21年
名誉総代 宮司交代新体制を構築・神社庁長表彰

千葉 道夫
平成28年～30年
百二十周年奉賛会長・神社庁長表彰

小林 一男
平成31年～現在

○平成元年　昭和天皇遙拝式

1月7日昭和天皇崩御。2月24日御大葬当日、実行委員会主催で130人参列、社務所大広間で遙拝式が行われました。士別神社では蒸飯を謹製参列者に呈しました。

○平成2年 平成御大典を奉祝

新陛下のご即位を寿ぐ士別市奉祝の集いは10月29日士別市奉祝会主催で当社社務所に市民350人余参会、三部形式で進行。①御即位奉告祭 ②奉祝式典、樫木実市長他祝辞 ③記念講演は佐古幸嬰女史の「美わしの日本、ありがたきこの年」、米国神学者研究大会に招かれ大好評を博した先生だけに、86才の高齢とは思えぬ張りのあるお声の講演に参会者は感銘、講演収録のビデオ借り入れ希望相次ぎました。

▲記念講演佐古幸嬰女史
平成10年94才で帰幽。皇學館大学　佐古一洌理事長ご母堂

野外舞台建立　間口奥行5間25坪鉄骨造 社務所向い側、斜面を活用祭具庫も設置。前面シャッターには九十九山の野花で彩色イラスト、周囲の景観に調和と好評。

隣接地購入境内に　北側突出部分を東山秋保ナカ氏のご好意で購入。総面積10万平方ぱ、周囲2・5キロ本道第二位の広さ、自然林は全て境内地となりました。

奉祝弓道会　9月15日地元はじめ札幌や天塩、増毛からも参加120人盛大に開催。

記念植樹　神社総代会で10月17日桜他**野鳥看板更新**　士別LCで昭和48年建立以来3度目の化粧直しご奉納。

▲士別小僧会による江戸前かつぎ以来、今年で30回目

▲6月30日竣功祭、7月14日祭典委員会と共催してこけらおとし。駅南神楽、吹奏楽、歌の競演など賑やかに

社日地神碑移設　昭和21年線路西地区建立。宅地化により平成2年境内に移設。

○平成2年 初の人形供養祭

市民の希望に応え8月7日初の人形供養祭、翌年から3月3日に変更。今年は丁度30回目を野外舞台前で斎行、喜ばれています。

○平成7年ご創祀百周年奉賛会設立

4月16日設立総会。会長に斉木繁雄、副会長には木島秀雄、汐川俊一、植松繁雄、山本桀、中村徹雄、江端八郎、深澤宏紹、佐藤安司、谷三二、福万清一、専務理事に岩崎次夫の各氏他役員選出、事務局長に奈良俊雄氏を委嘱。協議を重ね8月～10月役員篤志募財、11月から地区募財。最終的には市外ゆかりの篤志と合せ士別始まって以来の高額3億3千余万円が奉献され、順次懸案事業が完遂できました。

▲平成7年7月8日　士別神社初の野外劇公演。士別市民劇場（安川登志男代表・前教育長）20周年記念「トロイアの女たち」。夏の夜空の中400人の観客を魅了。全道的反響を呼びました。

○平成9年 士別神社敬神婦人会発足

斉木繁雄会長の肝いりで待望の敬神婦人会が発足、5月15日奉告祭を斎行。活発な活動が継続されています。

○平成9年→11年　輝く百周年へ

平成9年11月、道内屈指の規模と神域に調和した1700平方米余の参集殿竣功奉告祭。翌10年5月新弓道場竣功祭と開場式、全道弓連弓友参加記念射会。

11年例大祭宵宮祭の後、関東型＝全天候型新大神輿の九十九山周辺特別渡御、神明造荒木田士新相撲場修祓式18日上川北部相撲大会。表参道入口

▼平成7年士別南中は7月15日を社会奉仕の日と定め、部活単位の白丁奉仕が実現、祭りに活気を与えたと好評。9年からは士別中と隔年奉仕に

に小池暢子画伯の浮彫記念除幕式、つくも山記念号は高橋しん画伯「百の星」揮毫奉仕漫画入B5 50頁全戸配布、式年大祭奉祝式典祝賀会は神社本庁献幣使富良野神社宮司西川邦秀本庁理事道神社庁長参向、10年ぶり拝殿部戸を開放、参集殿に移動賑やかに百周年を祝しました。

○平成11年　神社庁上川支部大会当番

昭和52年以来22年ぶりに士別神社当番10月9日士別グランドホテルで開催、大阪の声楽家甫田良子氏〝日本の心を歌いましょう〟和やかな雰囲気で好評でした。

○平成12年　天塩川歌碑建立除幕式

〝直ちには海に下らず北を指す天塩川は北国の意志〟眼科医で歌人斉藤昌淳氏離市に際し建立、8月26日市内外多数参列し除幕式。周年毎に愛好者集い献歌句祭が行われています。

○平成14年　弓道場開設70周年

市内唯一の弓道場、開設70周年を迎え記念祭と射会が9月29日催されました。

○平成15年　境内社聖徳神社80年

聖徳太子を祀る境内社聖徳神社ご創祀80年大祭は5月17 18日奉賛会主催で斎行、記念祝賀会が参集殿で催されました。

○制札台玉垣奉納　上北一幸紀美子夫妻

昭和19年建立切妻形破風造木製制札台玉垣、3度目の建替。ご夫妻は木曽檜材使用友人の協力も得て6月30日奉納竣功式。子息利直氏により防腐工事を継続頂いています。揮毫は時の伊藤仙五郎町長。

○平成16年　佐藤公聰宮司神社庁長に

4月北海道神社庁長、7月神社本庁理事にも就任。関係5団体合同祝賀会が5月18日開催。18年には庁長を大会長に全国神道講演大会が当社参集殿で合宿・全国レベルの大会初開催となりました。

○平成17年古峯龍尾神社ご鎮座10周年

平成7年境内古峯神社と温根別南線龍尾神社を合祀、境内社古峯龍尾神社が合祀ご創建。10周年記念大祭式典は8月13日に斎行。27年には20周年祭、10周年20周年各記念誌も刊行されています。

○平成18年　民謡碑建立　南参道沿いに坂井きよる氏が江差追分前唄を刻んで5月29日建立除幕式が行われました。

朝がゆ提供　10月1日から佐藤三枝子社務員により参拝者に振舞い25年迄1月を除き続け、26年からは社殿前に神塩2百袋を持帰り頂いています。朝がゆは珍しく何度も報道されました。

○平成19年　市民植樹祭　九十九山を守る会＝近藤晴彦会長創立20周年記念に日本桜の会ゾヤマザクラ200本植樹を呼びかけ市民60人参加、主に表参道入口南西面に植樹されました。

○平成21年ご創祀110周年　20年11月29日110周年奉賛会設立総会。会長に小泉千万、代行に佐藤安司、専務理事に松下義春、事務局長に菅原利伸各氏を選出。築85年経過初の社殿洗浄、本殿浜縁取替、参集殿防水屋根取替ほか懸案事業推進のため早速募財に着手、3千5百万円の篤志を賜り、6月30日主要事業竣功祭斎行。8月22日に式年大祭を神社本庁献幣使當麻神社鎌田正彦宮司参向、上川雅楽会、初の岩戸舞奉奏、高額奉賛者に感謝状伝達、110周年を奉祝しました。10月3日には札幌から斉藤和子夫人と令嬢道子氏も参列、昌淳碑10年記念祭と詩歌句祭。9月20日には奉祝太幹杯弓道大会等記念行事も賑やかに催されました。

◀平成27年9月13日建立15周年詩歌祭

▲祝賀会　発起人紹介

○平成23年　戦後初の宮中献穀田

戦後初、市内中士別松本勇氏が宮中献穀田に選ばれ、古式にのっとり5月16日田植祭9月13日抜穂祭、10月25日品種ゆめぴりかを献上。JA北ひびきで初、当市70年ぶり、栄誉の秋となりました。

つくも山桜音頭、DVDも奉納

金井恵美子氏の篤志でひふみ会作詞、森脇一彦作曲、一桜会振付け、5月15日聖徳神社祭で披露、平成30年第2弾として**ありがとう**のご奉納、以来2曲を敬神婦人会有志も出演奉仕しています。

○平成25年　九十九山の桜の古写真展が郷土研究会主催参集殿ロビーで開かれました。

○平成25年神宮式年遷宮お白石奉仕

奉賛金は目標に対し前回314%今回281%管内一の実績で納金。18・19年のお木曳に続き8月8日より40人参加お白石奉献団結成参宮、皆感激一人と喜ばれました。

○平成28年　39年ぶり宮司交代

佐藤公聰宮司勇退の後をうけ宮司には佐藤元保禰宜が1月15日付で発令され、39年ぶりの宮司交代となりました。

佐藤元保新宮司　神宮研修所・皇學館短大卒業、札幌諏訪神社、上川神社権禰宜を経て昭和53年から当社禰宜、明階取得28年神職身分2級上昇進。神社庁上川支部幹事、士別RC会長等歴任。上士別多寄温根別中士別も兼務発令されました。

佐藤恵美禰宜就任　当社祭祀舞指導者、道神社庁祭祀舞講師も委嘱されています。

▲樹木に樹名板取付け　平成28年6月23日

▲植樹祭
代表して牧野勇司市長挨拶

◀58人参加して記念植樹

○平成30年天皇陛下ご即位30年植樹祭

25年市文化振興事業九十九山観察会、28年道森林管理局銘板提供指導で28年ぶり樹木調査と名札付けがなされました。30年5月13日記念植樹祭斎行九十九山を守る会川副春夫会長外市民参加、道森と緑の会提供の桜100本を植樹しました。

▲敬神婦人会20周年式典　平成29年、記念誌も刊行

記念事業奉賛会の経過概要

■**平成27年5月**　損傷が著しい弓道場の改築を総代会で120周年記念事業の前倒し事業として行うことを決定。屋根塗装、外壁修理、内装張替修復など4月に着工し、総事業費1，754，476円で5月に竣工。

■**平成29年5月**　役員会、総代会で御創祀120周年を迎えるに際し緊急懸案事業を奉賛会を組織して実施することとし計画原案を審議、準備委員会で細部検討することを決定。

■**平成29年6月**　第1回土別神社御創祀120周年準備委員会を開催し、参集殿暖房、照明器具の整備、鳥居、工作物の整備など記念事業について協議。

■**平成29年11月**　第2回準備委員会において緊急性が高い参集殿暖房施設改修事業を前倒して実施することとし12月の総代会で承認。

■**平成30年**　参集殿暖房施設改修工事を前倒し実施

■**平成30年7月**　土別神社御創祀120周年奉賛会設立に向けて、総代会長、副会長による準備打合会を開催、以後9月まで4回にわたり奉賛会組織、記念事業、予算などについて協議。

■**平成30年11月**　土別神社御創祀120周年記念奉賛会設立準備会を開催。

■**平成30年12月1日**　土別神社御創祀120周年記念奉賛会設立総会を開催、会長に千葉道夫氏を選任するとともに、記念事業計画、予算，奉賛会役員などを決定

■**平成30年12月4日**　第1回役員会を開催　今後の募財活動などについて協議

■**平成31年1月**　120周年奉賛会常任理事会を開催

■**平成31年2月～3月**　自治会の協力を得て募財活動を実施。

■**平成31年3月**　第2回役員会を開催し、募財活動状況の報告と今後の事業の推進について協議。

■**平成31年4月**　建設委員会（委員長鈴木副会長）を設置し記念事業推進について具体的に検討。

■**令和元年5月25日**　第3回役員会、第2回奉賛会常任理事会を開催　予算及び事業内容を検討。

■**令和元年5月～7月**　事業計画に基づき大鳥居、相撲場整備、山神社補修などの事業、祖霊会室の畳表替え，参集殿，手水舎照明設備の1円化などの事業を実施

■**令和元年8月**　第4回役員会で募財額の最終確認と追加事業の決定するとともに記念大祭、記念式典について協議

■**令和元年8月～9月**　社殿改修、参集殿大広間畳表替え、表参道石段整備事業などを実施

■**令和元年10月12日**　土別神社御創祀120周年記念臨時大祭、式典、祝賀会の開催　土別神社御創祀120周年奉祝号の発刊

御創祀120周年記念奉賛会役員

（令和元年九月現在）

（敬称略順不同）

会長　千葉道夫

会長代行　小林一男

副会長　鈴木勉　阿達勇　大野裕一郎　佐久間富雄　榎本實男　鈴木隆夫

名誉会長　牧野勇司　佐藤安司

名誉顧問　田苅子進　景井光男　松ケ平哲幸　中村徹雄　黒河照雄　渡會昭治　菅原剛　藤原高典

顧問　辻本康行　織戸俊二　奈良康弘　田中勝則　喜多武彦

参与　川副春夫　宮居勝子　小野博司　石森護　太田雄三　菅原清隆　佐々木文和　垣見一憲　佐藤正明　庄司彰子　谷口弘　沢田正治　今井清貴　有野良長　藤森和明　林利彦　渡辺寿男　穴田俊昭　渡辺仁　西澤清士　芦名秀幸　白土一夫　塩崎健治　西田悦朗　氏家洋一　山口健　清野史明　宮路博美　猪股武　安藤英治　丸すみ子　伊藤幸子　古川春男　佐藤良雄　林臣億　斎藤愛洋

常任理事　河野孝幸　竹村敏明　久我信弘　佐々木隆　尾形幸男　馬場軍司　上杉勝造　小笠原壽則　志田陽一　西本健二　尾形強　多田光平　澤崎照雄　大谷悟　佐々木守　後藤田久　酒屋勝雄　梅津純男　頓所隆嗣　濁川英機　大橋貞雄　清渕康剛　渡邊孝

理事　自治会長

専務理事　松下義春

監事　工藤照和　塩崎健治

事務局長　朝日保

事務局員　河野孝幸　濁川英機

名誉宮司　佐藤公聰　宮司　佐藤元保

百二十周年に際して

士別神社御創祀百二十年周年記念奉賛会会長　千葉道夫

全国民の祝意と歓喜に包まれながら、新天皇即位により新元号「令和」を迎え歴史的に意義深く記念すべき年に、士別神社御創祀百二十周年記念を皆様とともにお祝い出来ます事を大変光栄に感じております。

顧みますと、明治三十二年七月に屯田兵最後の開拓地として入地と同時に天照大神を御奉祀され、明治三十五年には九十九山に祠を建て地域住民の心の拠り所として鎮座されました。その後、大正十五年に本殿が建立、昭和三年の士別開基三十年に拝殿工事が進められ、昭和五年に道北隋一の社殿が完成致しました。士別神社境内は道内二番目の広さを有し、北海道環境緑地保護地区でもあり北海道自然百選にも選定されるなど、まさに先人先輩の開拓魂と市民の崇敬の念が込められた「鎮守の杜」であります。昭和三十五年以降十年毎に式年大祭が執り行われ、社殿を中心に境内の造営物の整備・改修が行われ境内整備がその都度施されて参りました。特に平成十一年の御創祀百周年に社務所の老朽化に伴い、記念事業として五ヵ年計画で現在の参集殿が建設されたのは記憶に新しいところであります。荘厳華麗な参集殿の整備により九十九山の杜は信仰の場と共に、様々な社会活動や交流の場として道内外から多くの人々が訪れる道北の名高い大社とし親しまれて参りました。これまで百二十年の歴史を先人先輩各位が敬神の想い篤く大切に刻んで来られ事に感謝の念に耐えません。

さてこの節目の年を迎え、これまでの大切な思いを受け継ぐとともに次代に引き渡すべく式年大祭の祭祀について二年前より準備委員会を構成し検討を重ね、昨年「士別神社御創祀百二十周年記念奉賛会」を発足、社殿の改修を始めとする記念事業と実施に向けて取り組み、神社関係者各位、役員そして広く市民の温かなご理解とご協力を頂き、計画されておりました各種記念事業を順調に遂行する事が出来ました。特に現下厳しい経済環境にも関わらず心温まるご浄財を賜り心から感謝申し上げます。又、募財事業推進に献身的に御尽力頂きました各役員、神社関係者、自治会長そして地区総代の皆様に衷心より感謝お礼申し上げる次第であります。

この度の御創祀百二十年の記念すべき年に、新時代「令和」元年を迎えました。「令和」の二文字に込められています想いは「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ」であります、まさに士別神社を御祀りされて来られた先人先輩の精神そのものであり、九十九山に鎮まりし鎮守の杜が市民の心の拠り所として守り継がれた偉業に改めて敬意と感謝を申しあげ、これからも壮麗な士別神社を市民の心を寄せ合いながら伝統を守る為に心新たにご奉仕申しあげる所存でございます。どうか皆様にはご指導ご協力賜りますよう宜しくお願い申しあげます。

結びとなりますが農林商工業の御繁栄と地域の益々の御発展、市民皆様のご多幸とご健勝を心からご祈念申し上げお礼のご挨拶と致します。

記念事業のあらまし

120周年記念奉賛会事業につきましては大正15年ご造営の文化財的御本殿を後世に継承するため屋根、外壁修理、さらに、平成9年建設以来22年が経過し老朽化している参集殿の暖房、照明器具を更新、効率化し光熱費の縮減を図るとともに、老朽化している弓道場の改修、大鳥居、相撲場、山神社玉垣など境内施設の修復などを行うため次の事業を行いました。

◎御社殿大修理工事
（1）千木、鰹木、屋根補修
（2）社殿外壁補修

◎参集殿設備改修工事
（1）暖房設備改修
（2）照明器具ＬＥＤ化
（3）大広間、祖霊殿等畳表替及び内装補修
（4）水道切替

◎弓道場改修工事
（1）屋根塗装
（2）外壁修理及び内装張替

◎境内施設整備工事
（1）大鳥居鉄骨全塗装
（2）相撲場屋根及び四本柱全塗装
（3）山神社玉垣改修
（4）手水舎照明器具ＬＥＤ化
（5）表参道石段補修改良
（6）境内ポンプ補修及び舞台階段手すり設置
（7）あずま舎の全塗装

◎御本殿調度品整備事業
（1）御翠簾一式
（2）神饌案用薦
（3）真榊（五色旗）
（4）拝殿用門帳

◎御創祀120周年記念誌の発刊
記念誌1万部を発刊、氏子全戸配布。

◎記念臨時大祭、記念式典の挙行及び会員待遇
10月12日記念臨時大祭、式典、祝賀会開催
篤志奉賛者には待遇表に基づき感謝状又は記念品等を配布。

士別神社御創祀120周年奉賛会収支中間概要

令和元年8月末現在

収入		
科目	金額	摘要
奉賛金	34,956,500	篤志奉納金
繰越金	356,482	110周年事業繰越金
繰入金	1,148,238	神社会計からの繰入金
雑入	36,519	除雪機下取り、預金利子等
計	36,497,739	

支出		
科目	金額	摘要
弓道場改修費	1,750,000	屋根、外壁塗装、内装改修、暖房器整備
御社殿改修費	9,396,000	千木、鰹木等補修、外壁塗装補修
参集殿設備改修費	14,826,000	暖房設備改修、照明のLED化、大広間外畳表替え、内装補修
境内設備整備費	3,426,000	大鳥居塗装、相撲場改修、山神社玉垣改修、手水舎照明LED化、境内ポンプ補修、参道石段整備、舞台階段手すり設置
御社殿調度品整備費	500,000	御翠簾、神饌案用薦、真榊、門帳整備
奉祝事業関係費	3,500,000	記念誌発刊、式年大祭・記念式典、祝賀会開催費、会員待遇（感謝状、記念品）
事務、諸経費	1,000,000	事務通信費、会議費、募財費、その他経費
予備費	2,099,739	
計	36,497,739	

士別神社御創祀120周年記念事業御奉賛芳名

真心の御奉賛に深く感謝申し上げます／敬称略順不同（令和元年7月31日現在）

特別顕彰名誉会員

＝神社庁長感謝状謹呈＝

一金、百万円也

千葉道夫
奈良俊雄・妙子
佐藤公聰・三枝子
佐藤育子
佐藤元保
士別神社祖霊会

特別顕彰会員

＝神社庁長感謝状謹呈＝

一金、五拾万円也

川原一夫
（有）小林自動車
鈴木建設株式会社
佐藤允克
佐藤隆士
佐藤恵美

特別名誉会員

＝奉賛会会長感謝状謹呈＝

一金、四拾五万円也

佐藤慈宏

一金、参拾万円也

芦原トヨ子
阿達勇
佐藤正明
大野土建（株）
（有）久保重機工業
北星信用金庫士別中央営業部
高橋建設株式会社
金井八洲俊
日本甜菜製糖（株）士別製糖所
佐久間富雄
酒屋勝雄

特別有功会員

＝奉賛会会長感謝状謹呈＝

一金、弐拾五万円也

北ひびき農業協同組合
佐々木元晴

士別神社と九十九山 120年飛びある記

▲題字・描画奉納　高橋哲見氏

○明治32年　ご創祀　7月13日28県人で構成、北海道最後の屯田兵百人を含む622人が入地、夜半百番目の家が火災という思わぬ災難。福に転じ開拓成就を願い名越源五郎中隊長は、練兵場の一角に記念標を建てカラマツ4本を植樹しメ縄を張り天照皇大神を祀って15日に99人の入隊式を挙行。士別開基・士別神社のご創祀、7月15日は士別祭りとして受け継がれてきました。

○明治35年　九十九山にご鎮座　士別村が剣淵村から独立、名越中隊長は今の鎮守の杜を屯田兵に因み九十九山と名づけ、共同作業により山頂に神祠を建立、東旭川村旭川神社初代芦原伊佐男社掌を招き、例祭日に鎮座祭が行われました。士別神社のご鎮座です。芦原社掌は明治45年まで、例祭毎に来村奉仕されました。

一金、弐拾三万円也
平成30年祭典委員会

一金、弐拾万円也
小林一男
士別市管工事業協同組合
吉井秀二
中村徹雄
士別市電設業協会
(株)田中工業
共工電氣工事(株)
大野裕一郎
菅原剛
田苅子進・智子
匿名

名誉会員
=奉賛会会長感謝状謹呈=

一金、拾万円也
帋田隆利・良子
鈴木隆夫
森岡秀雄
相山佳則
梅田誠
(株)なかむら
高橋畳店 高橋英充
佐藤建設管理(株)
佐藤安司
株式会社士別グランドホテル
西條正則
齊藤道明
(株)道北日報社
沼倉新一
藤原高典
土屋明人
士別地区森林組合
古川春男
黒河照雄
松下義春
株式会社小泉鉄工
有限会社 榎本農場
景井光男
(農)ヤマサファーム
佐々木雅也
匿名
佐藤成陽
小山利子
高井悟
高柳章・晴美
株式会社五十嵐組
有限会社 萩尾興業
林実
鈴木禎子
河野静雄
浅田一憲・博美

有功会員

一金、七万円也
士別神社敬神婦人会

一金、五万円也
士別弓道会
五十嵐徹子
相原満
木脇一子
熊谷通子
川副春夫
(有)安川電機商会
株式会社カトウ
協友建設株式会社
有野産業(株)

▲初代
芦原伊佐男社掌

▶**芦原伊佐男社掌** 文化2年滋賀県出身。愛媛県内社掌を経て明治31年旭川神社初代社掌。先代厳夫宮司は旭川兵村記念館初代館長、平成元年当社90周年に北海道神社庁副庁長として献幣使参向。現高穂宮司は今年北海道神社庁長・神社本庁理事就任。

明治35年9月12日、宮城県小牛田山神社を崇める山神社が屯田夫人によりご創祀、安産を祈り小枕が供えられました。造材木工関係者、登山家の信仰も集め、平成に入って北町と兵村の山神講も合祀しました。

▲昭和63年2月2日筑波大学大濱徹也博士(右端)と放送大学一行が、開拓と生活教材作成ロケで山神社来社取材、零下20数度の厳寒下ビデオ撮影された。

○明治45年遙拝殿建立、旧社殿に

開拓が進み住民も増え、祭典には1丁目付近、停車場通の南北で競うように数々の見世物小屋がかかり人出で賑わいました。

明治45年7月30日明治天皇崩御。九十九山に遙拝殿を建立、9月13日夜8時から村民多数参列遙拝式が挙行されました。遙拝殿は大正4年、老朽化した神祠からご遷座、社殿として現社殿完成まで使われ、昭和7年武徳地区の要請により武徳神社拝殿として移設、平成16年新築で解体されました。

▲2代
五十嵐盛一社司

▶**五十嵐盛一社司**=明治19年新潟県弥彦神社社家出身。鷹栖神社創立初代宮司。芦原社掌の後を受け大正7年迄例祭奉仕。大正4年当社創立の件で町役場に乞われ度々来町し屯田木村家(2代伊三郎氏は市3代市長)に宿り尽力。現鷹栖神社五十嵐徹子宮司は平成17年帰幽の一大三代宮司夫人で、東旭川屯田三世。

▶明治45年建立旧社殿、大正末頃。士別料飲店組合植樹標柱も右下端に（市立博物館提供）

○大正8年 ご創立、村社に列格

大正4年士別町制施行、町勢の進展めざましく公認神社が待望され、7月10日初代遠藤康之町長始め山畑弁次郎氏、阿部儀一郎氏等発願者総代として出願、翌8年5月23日内務省認可、村社に列格し神饌幣帛料供進神社に指定され、初代朝倉克胤社掌が任命されました。丸百年前のこと。翌9年5月、二代石附喜三太社掌が、中士別神社社掌から転入着任しました。

◀明治45年7月15日祭典日の停車場通（丸武西條提供）

▲3代＝初代専任朝倉克胤社掌

初代朝倉克胤社掌は鳥取県出身で明治41年當麻神社初代社掌、大正2年鷹栖神社次席社掌として勤続。大正8年6月24日士別神社社掌、同9年3月21日退職。長男守男氏はもと日本電信電話公社勤務、昭和45年当社70周年式年大祭に参列されています。

今野正廣・勝子
工藤照和
美吉屋
有限会社
（協）士別建設協会
富居鉄工所 富居勝子
三野建設株式会社
株式会社山口クリーニング
斉木印刷株式会社
松塚医院
有限会社野運送 代表取締役 谷村一文
渡辺正一
南親会自治会
（有）富喜堂
宮武電機（株）
フジヤ住設工業（株）
（株）ミズタエンジニアリング
平塚静一
佐藤良雄
藤森志津枝
後藤嘉明
安斉政一
株式会社カワハラデンプン
菊正商事 菊地正一
菅井あさ

石井正三
大崎清
志田陽一
佐々木みち子
渡邊孝
小山孝子

特別会員

一金、四万円也
野口芳江
一金、三万円也
加藤幸男
妹尾カヨ子
佐藤俊信
寺島栄一
近藤晴彦
高賀仁
（株）ミタツ
千葉繁夫
河野孝幸
朝日保
古川八郎
しずお建設運輸（株）
（有）タツミ工業
高橋建具産業株式会社 代表取締役 高橋光則

（株）久光組
百瀬敦子
北昭産業（株）士別支店
本山忠之
大西幸男
（有）澤田鉄工所 澤田智仁
今井忠則
株式会社泉谷
株式会社江端商店
音丸鉄男
（株）㋐阿部商店
吉田耳鼻咽喉科分院
石川公隆
高野マサ
白土建設 白土一夫
櫛谷ちよ
西田悦朗
前畑孝明
丸すみ子
高橋眞純
上杉勝造
都研司
林臣億
齋藤愛洋
三分一正記

▲4代＝2代社掌
石附喜三太社掌

石附喜三太二代社掌は社殿ご造営の大業を成し、昭和6年11月28日帰幽。小学生に書道を教えていた。新潟県出身、小学校教師を経て士別神社社掌として12年間奉仕。ご創祀70周年式年大祭には長男忠平氏＝北海教育評論社社長が札幌からご参列。当市西條久子・正則両氏は姪甥に当り、宮司母ハナヱ媛命の弟妹。

◀本殿上棟祭　大正15年10月9日

▶聖徳神社鎮座祭　大正14年9月1日

○大正13年士別神社造営会が発足

11月23日、全町を一眼とした士別神社造営会が発足。会長に根元文敬町長、副会長に鈴木永治郎筆頭総代、幹事理事委員に助役収入役総代行政部長氏子有志を網羅、町費と寄附折半とし年次計画で遂行することが決定、ご造営事業が始まりました。

○大正14年境内社聖徳神社ご鎮座

大工鳶職職人等働く人々の士別工業組合により、全国でも数少ない＝本道では7社聖徳太子を祀る境内社として、木造流れ造りの聖徳神社が竣功、鎮座祭が行われました。職能守護神として現在は奉賛会により5月桜まつり期間に例祭が行われ餅まき宝引き舞踊民謡ショーで賑わいます。

老人保健施設
ボヌゥール士別
(有)佐々木車両工業所
佐々木　隆
猪瀬幸江
菅井　勉
久我信弘
三津橋産業株式会社
北海アサノ
ロックラー株式会社
士別運送(株)
山田清明
加納正信
澤崎照雄
多田光平
尾形政義
後藤　勲
秋山茂雄
ヤマハ発動機(株)
士別テストセンター
士別浄化工業(株)
ディリーサポート士別
代表取締役　北口久
尾形　強
大橋貞雄
濁川英機
妻鳥　寛
伊藤孝一

山崎敏文
山中真樹
株式会社上北装飾
高橋　真

正会員

一金、二万円也

北村ナミコ
北岡琴江
福嶋美貴
石田秀一
山崎東三郎
大谷勇
宮原允
大瀬敬志
相山協子
有野清
石前佳代
沢田正治
(有)士別モータース
神田恭史
今井清貴
織戸俊二
(有)もり屋
有野良長
河野理容室
上北紀美子

武田正徳
(株)士別衛生公社
松井宏彦
(株)佐藤左官工業所
佐藤賢治
西條嘉代
梅田淳二
若林美恵子
渡辺仁
山辺勇
フードアンドリカー
おおがけ
塩崎健治
小泉仲子
猪股武
岡田正一
足利勝義
十河ミチ子
栗本津吉
古川靖弘
清玲
株式会社サンキョウ重機
松川英一
柳瀬信男
市川和雄
佐藤静男
佐藤光男
竹中政広

高買孝敏
徳長進
狩野眞人
小林秀樹
遠藤博康
安達佳充
西本健二
山下英紀
清水茂
安達宏次
神田敏美
後藤田久
道齊信幸
溝渕康剛
藤原賢治
山岸俊治
広瀬康秀
小野寺嘉之
溝渕裕一
伊藤輝一
黒原進
松井薫
石森護
谷富雄
藤田良治

一金、一万五千円也

伊藤勉

一金、一万円也

衞藤幸恵
岡林昇
上杉志津子
加藤政郎
高橋康則
竹内良太
中谷久美子
村上ミツエ
高橋美知子
松田臣子
冨澤計校
溝渕康剛
藤原賢治
山岸俊治
広瀬康秀
小野寺嘉之
溝渕裕一
伊藤輝一
黒原進
松井薫
石森護
谷富雄
藤田良治

士別自工
道北部品商会
傳馬秀昭
大道寺恒充
佐藤勝彦
卯城通
市田愛子
五十川寧弘
玉川勇
沼田隆行
佐々木和仁
柳伸行
武山鉄也
相山慎二
粟野栄二
黒川順吉
早坂文明
佐々木徹夫
田島誠
坂本英樹
大津允利
飯田保
大野陽治
高買房枝
(有)北興電気
深尾幸夫
(有)中田ガラス店

○大正15年　本殿竣功、遷座祭

大正14年敷地造成、本殿工事着工。15年10月9日上棟祭＝6頁上段の写真。各集落より献納の10俵の餅が撒かれました。ある地区ではつきたてをすぐ俵につめたため餅は一塊に皆くっついていたので俵毎撒いた所、参詣者が競ってちぎって、最後は俵のワラまで綺麗さっぱり。山頂のため莫大な資材運搬は難儀を極め、基礎工事は48尺の井戸を掘り滑車で水を汲み上げて基礎工事を終えました。

◀宮下通境内入口の初代大鳥居は木造で明治39年建立、その後銅板巻となり社号額もかかっている＝昭和15年撤去。山頂には大正15年11月建立の忠魂碑が見える。正面参道上方には本殿と仮拝殿、右端上は明治45年建立旧拝殿＝昭和2年撮影＝市立博物館提供＝

◀福井県人共愛会が大正15年手水石と手水舎を奉納。昭和54年現手水舎建立のため現在は聖徳神社へ移設使用している。

▶忠魂碑・帝国在郷軍人会士別町分会が大正15年11月建立。碑面は当時の陸軍大臣宇垣一成＝戦後、参議院議員の揮毫。

馬車用の迂回路は昭和30年代迄残っていました。井戸は昭和41年ポンプアップして今も使っています。工事請負／高島政市・近藤階雄・佐藤主税

○昭和5年　社殿ご造営、落成奉告祭

昭和3年昭和ご大典の慶事、士別開基30年に際会、造営会＝伊藤仙五郎町長は募金と工事再開、拝殿は4年11月上棟祭、5年7月14日道北一の荘厳なる社殿として落成奉告祭が斎行されました。工事請負／大野直吉＝今の大野土建初代

○昭和6年10月　佐藤鐵雄社掌着任

山形県出身、滝川屯田二世、樺太豊原神社、上川神社を経て着任。妻ハナエ＝平成9年帰幽、士別西條政吉長女。太幹と号し大日本弓道会教師・日弓連5段。逸早く弓道場開設開放。昭和17年郷社昇格社司。戦後神社制度改革で初代宮司。

野崎啓治
佐々木文和
石川敏
山口勝
西村祐二
堺律子
守屋明
滝吉孝
丸徹也
佐々木和三
大留義幸
前川隆通
今井好彦
吉田博行
佐藤隆子
松岡義輝
半谷進
下道國男
永野強
越湖弘文
辻本幸慈
傳馬靖昭
高橋勇
日の丸工芸（有）
三共建設株式会社

（株）三共コンサルタント
丸藤建材株式会社
神田税理士事務所
齋藤了亮
八重樫悟
（有）橋爪食品
（株）木村組
佐藤賢治
阿達稔
小野田勝
横沢商店
石王良和
五十嵐智
為広末雄
岩田昭史
但木行久
栗原正明
柿崎博夫
大橋直幸
谷口政志
片岡哲男
矢萩恭子
株式会社藤工
庄司彰子
山本組（株）

佐々木清
菅原信一
阿部守男
山口雅敏
幸田和子
吉原信良
池田政幸
小杉茂登春
黒島弘司
吉井正博
匿名
安川登志男
横山政訓
木島治
上原隆
近井孝義
逢坂克幸
スタジオササノ
高橋光一
（有）梨木金物店
谷口弘
山本善成
工藤寿
遠藤利雄
若松勲

▲新社殿　北西面　昭和10年

▲5代
佐藤鐵雄初代宮司

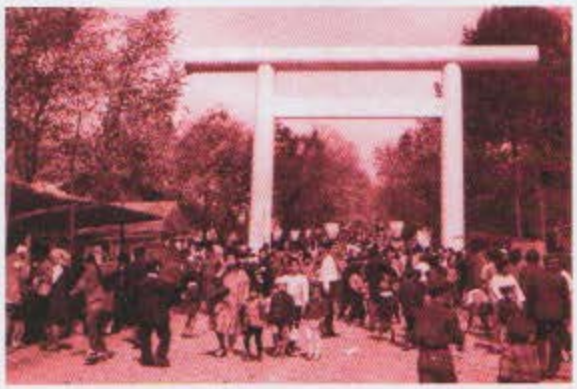
大神輿奉製ご神幸式、大鳥居4基建立、社殿社務所数次増改築、明階2級上。戦前戦後を通じ48年神勤。9人の子宝に恵まれ長男公聴は名誉宮司、6男元保は現宮司。昭和53年9月4日帰幽。

○昭和9年　九十九山桜まつり始まる

屯田の昔、天然の桜の自生もあった由ですが、明治39年日露戦争戦勝記念に小学生の植樹を嚆矢として大正末から昭和にかけ兵村青年団はじめ市民が年毎に植樹を重ねました。昭和7～8年頃には「千本桜で満山は花の山と化す」ほどに。士別商工会はボンボリ百余基を設け点灯、露店も出て桜まつりの宣伝が開始されました。戦時中は下火となりましたが戦後直ぐ復活、商工会議所、次いで観光協会が主催「駅より山まで人を以て埋まる」全盛時代を迎え、全道的に有名になっていきます。

○昭和12年　ご神幸式始まる

昭和10年明糖工場＝日甜士別製糖所決定奉告町勢発展祈願祭。昭和11年木製全道一正面大鳥居建立＝昭和28年撤去、45年現在の鋼鉄製へ。昭和12年士別町聖旨奉戴御神輿奉献会より道北一豪儀な大神輿奉製、7月15・16日2日間に亘りご神幸式が始まりました。以来昭和20年空襲警報下を除き22年迄15日、古代色豊かに市街地の渡御が続きました。


▲昭和41年5月22日満開、晴天、日曜で賑わう

昭和21年占領軍命令で社格廃止、6月20日神社本庁所轄となり今日に至りました。士別町開町50年の昭和23年の祭典で全町渡御が計画され、士別中のトラック総動員実施。当時はリヤカーや馬車全盛時代、破天荒で士別独特といわれましたが、やがて各地でも行われるようになりました。

○昭和14年 東山神社を合祀

4月25日明治40年頃より奉祀の東山地区奉斎の東山神社合祀祭が、地区民全員参列斎行されました。

○昭和15年 消防殉難碑建立

昭和3年帝国製林工場火災消火中殉職の鈴木久一郎消防小頭を祀る殉難碑が士別警防団により建碑。12月25日除幕式が斎行されました。斎藤亮北海道警察部長の揮毫。正月出初式の日、消防団員勢揃いし慰霊祭と火防安全祭が行われています。

殉難碑慰霊祭、出初式火防安全祭＝平成18年の写真

▶終戦により書類破棄を命ぜられたが、士別町役場は当社に収められ現存。

○昭和17年 郷社にご昇格 町民氏子の熱願に応え昭和15年12月23日出願、17年2月20日付で北海道庁から郷社に列せられた旨告示され、4月16日地方費神饌幣帛料供進神社の指定をうけ、毎大祭には上川支庁長が幣帛供進使として参向さ

照後和孝
長尾宜利
佐藤隆男
矢島弘美
小島四郎
林　真澄
中山　忠
高橋貞男
ファションツルヤ
中村勝利
辰巳寿昭
志村印刷(株)
杉本佑子
畑　賢司
山川政雄
上川北部生コンクリート協同組合
岡　正憲
尾崎　学
河合薬局
士別幼稚園 谷栄子
松下和恵
久光一廣
(株)北海道銀行士別支店
(株)東洋実業士別営業所
眞木　久

新出利光
楠本克宏
(有)山本菓子舗
田中印刷株式会社
株式会社高島屋
鷲見整骨院
勝美鮨
ジュエリーおのでら
居酒屋やまもと
士別商工会議所
食ひ処 赤ばね
有限会社 三協
竹内栄一
渋谷法仁
小池宏治
大橋武男
川橋勝美
眞木郁夫
大森智
小椋昇
松本勝
藤井庄市
及川隆
中峰正道
有限会社 寺島建設

株式会社 大塚石材
稲澤　要
穴田俊昭
(株)船木電機
佐藤準一
武田芳江
松ケ平忍
広瀬利博
黒澤宣明
山口哲雄
(株)菅原塗装店
浅原　誠
片山康弘
士別市技能士会
渡辺幸明
片岡輝明
斉木勲
藤森洋子
中山悟
藤森和明
三和雅英
輿水広志
高田尚武
高橋澄子
士別軌道株式会社

第47回 お祭り 写真コンテスト

◎金賞
おちごさん
中津川邦夫氏

◎銀賞
ゴールバーンの乙女たち
佐藤正雄氏

▶御神幸式

◀福餅まき

御創祀120周年・令和元年記念
新神輿20周年記念
士別小僧会

▲御創祀120周年奉賛会役員会

つくも山一九六号・一二〇周年記念号
発行日／令和元年 10月12日（一万部）
発行所／士別神社御創祀一二〇周年奉賛会
会長 千葉 道夫
総合製版／水田一彦
写真製版／河野孝幸 印字／高柳晴美
印刷製本／株式会社 道北日報社
代表取締役 北村浩史

発行所 士別神社御創祀一二〇周年奉賛会
士別神社々務所内 事務局長／朝日保
北海道士別市東8条北1 九十九山
電話 0165-23-2243
FAX 0165-22-2553

一二〇周年記念事業スナップ

御社殿修理工事

大鳥居鉄骨全塗装

照明器具 LED 化

参集殿暖房設備改修工事

弓道場改修工事

相撲場屋根及び四本柱全塗装

祖霊殿、大広間等畳替え